

ヒアリングメモ

【日時】平成21年9月7日 17:00～18:00

【場所】保安院

【出席者】保安院：小林耐震室長、名倉審査官

当社：[REDACTED]

○当社説明

- ・ 当面のバックチェックは土木学会ベースで実施し、必要な対応を実施する。
- ・ 貞観津波については、福島に影響が大きい一方モデルが現時点で未確定であり、当社として必要な調査等を実施し、モデルの検討は電力共通研究の中でも検討する。
- ・ 合理的なモデルを構築し、それに基づいた評価を行う（当然、必要な対応は行う）。
- ・ 電力共通研究などでの検討であり、バックチェック最終報告とは必ずしもリンクはしない。

○NISAコメント

- ・ 聴取会の先生は、貞観津波について正式にBC基本ケースで扱う必要はないが、さりとて、何らかの形で安全性に言及できるのが理想と考えている。
- ・ JNESのクロスチェックでは、女川と福島の津波について重点的に実施する予定になっているが、福島の状況に基づきJNESをよくコントロールしたい（無邪気に計算してJNESが大騒ぎすることは避ける）。
- ・ 今後、産総研、地震本部の検討結果が出たタイミング、最終報告のタイミングで外向けの言い方について検討を進める必要がある。

今後の展開としては、

- ・ 津波堆積物調査（当社、他機関）の結果が出そうなのが今年度末？
- ・ それに、基づき推本でモデル検討が実施される [REDACTED] 先生からの情報）。
- ・ 来年度中には、ある程度モデルが提示されてしまう可能性があり、バックチェックでの取り扱い、外向けの言い方などを含め、上記の通り適宜NISAへの情報提供、取り扱い協議をする。